

文教厚生委員会会議録

平成27年10月20日（火）

午前9時30分 開会

○沢田清委員長

ただいまより、文教厚生委員会を開会いたします。

閉会中の調査事項についてを議題とします。県外視察については、10月29日から30日において、2か所を視察することと正副委員長において決めさせていただきました。お手元に配布した行程表の通り、1日目は東京都練馬区、2日目は東京都稲城市を予定しております。視察行程の内容について事務局から説明させます。

【事務局説明】

説明は終わりました。しばらく休憩します。

午前9時33分 休憩

午前9時38分 再開

○沢田清委員長

委員会を再開します。次に各視察先について説明をします。

○藤田千晴福祉部長

【資料に基づき説明】

稲城のポイント制は全国でも非常に有名で、色々な視察を何年も前から受けているところだというように理解しています。そのポイント制を中心に聞きたいのか、それ以外のところを聞きたいのかを整理する必要があると思います。

○沢田清委員長

只今部長から説明ありましたように、稲城市はポイント制を導入しています。部長に資料として出して頂いた保健師ジャーナルの資料にもありますように、「特徴的な施策として高齢者のボランティア活動を評価して、ポイントを付与。そのポイントを活用して実質的に介護保険料負担を軽減する介護支援ボランティア制度というものを考案して国へ提案し、介護保険の地域支援事業として制度化されている。多くの高齢者が介護支援ボランティアとして地域貢献を行っており、こうした点でも地域力を備えた市と言えよう。」ということで、新総合事業、いわゆる高齢者が高齢者を助けるということのポイントを使って上手にいった。というのが稲城市の大きな特徴です。保健師とタグを組んでいるということですか、部長。

○藤田千晴福祉部長

この資料につきましては、保健師の雑誌の中でまとめられているものになりますので、地域力を生かした取り組みですよ、と言う中でまとめ方になっていると思います。今回当委員会では、当然地域力というところも入ってきますが、「半田特有の介護予防対策について～新総合事業の取り組みを見据えて～」というテーマとなっております。稲城市も介護予防日常生活支援総合事業早期移行に向けた取り組みということで、練馬区と同じように取り組んでおりますので、その中で半田市も実施するに当たって、今実際にやっているところで、私たちが悩むところ、課題とか効果等々をお聞きするということで、ポイント制に絞ってしまうと少しずれてしまうのではないのかと思います。ですので、新総合事業に取り組んでいるという点に視点を置いたお話を聞いた方がいいのではないかと感じております。稲城市の資料の40ページの所から生活支援体制整備の事業の検討ということで、先ほど練馬区が生活

支援コーディネーターを社協にお願いしたという話を委員長がされましたが、これはそれぞれの市町村独自でどういう形で設置していくのか決めていくことになりますので、新総合事業に絞って視察を行った方が、練馬区との比較もできるという様に思っています。半田市がこれから取り組んで行くところに生かせるのではないかと考えています。

○沢田清委員長

練馬区、稲城市双方とも生活支援コーディネーターの部分がどのように行われているのかというところをまず一つ聞くと。

○藤田千晴福祉部長

要するにこの介護予防日常生活支援総合事業というところの内容を中心に説明を聞くと。どのように取り組んだかと言うところをお聞きするというのが、両方の特徴を参考にできるのではないかと思います。介護予防という幅広くなってしまうので、收拾をつけるのが大変になるかと思えますので、ここに特化した内容でお話を聞いていくことの方が、絞れるのではないかと私としては感じております。しかしながら、これは私どもが実際に行うのに参考という思いもあるので、逆に委員の皆様方がもう少し角度の違った視点でということであれば、そのような形で視察の質問内容もとは思っています。

○沢田清委員長

題目にある、介護予防日常生活支援総合事業でいろいろ検索するとここばかり特化しているところが出てきます。これについて見ていくとこの中に総合事業はこういうものだよという特徴的なことがあるので、この題目を念頭において両市とも視察に行ったときに必ずここが勉強会の内容で出てくると思うので、そこをよく聞いていただいて、ここについての質問を考えてもらい、そうすると帰ってきて勉強会のときに共有ができるというのが一つ。あとは、介護予防を全体的に皆様が思うことがあればそれももちろんせっかくの機会ということもありますけれども、先ほど言ったように介護予防というと広すぎて絞りにくいから事前に質問を送ってほしいとのことです。今部長が言われたように、半田市が取り入れていく道ではないところを勉強してもしようがないので、皆さんと想いを一緒にして、どうかというのが一つ。皆さん忙しくて、自分自身もそうだったんですが、前もって資料を用意できれば良かったのですが、ご勘弁いただきたいと思えます。日常生活支援総合事業というものを一つ考えていただければと思います。質問やご意見等あればお願いします。

○山内悟委員

とりわけ今回のテーマが半田特有の介護予防なのですけれども、昨日来た山梨市が半田市の何を注目して視察に来たのでしょうか。ちょっと教えてください。

○藤田千晴福祉部長

山梨市は地域包括ケアシステムというところで、半田市が県の補助金をもらっております。補助金をもらっているというところの中で、私も実際に「どうして半田を選んだのですか」と聞いたのですが、ちょっと口ごもっていましたけれども、おそらく県に聞いたのではないかとということと、ネット等で半田市の発表等も出ておりますので、要は補助金をもらっていることによって、新たにできた認知症の支援プログラム等々も補助金をもらってあそこまで立派なものができたりだとか、色々な事業が展開しているというところの中で、そこを聞きにきました。

○沢田清委員長

どこに半田らしさを取り入れられるのかが課題ですよ。

○山内悟委員

というか、よそから見て半田は何が先進とあってきてくれたのか。それが半田らしい特徴なのかなと思うのですが。

○藤田千晴福祉部長

半田が今取り組んでいることは、やはり必要な予防であったり認知症の項目であったりとか、認知症であれば先日医師会とエーザイと半田市で三者協定を行ったりですとか、あとは加藤電機さんの協力で認知症徘徊の模擬捜索を行ったりですとか、色々なところと手を組んでやっているというのは半田らしさというか半田の特徴ではないかということで、昨日お話を担当の方からしましたら、「本当に色々なことを色々な人達と手を組んでみえますね。」と驚かされていました。「将来何をを目指すのか。」ということも聞かれましたが、「やはり住み慣れた地域で最後をいかに迎えるのか」というところ。その仕組みをどのように作っていくか、というところ。それは同じです。行政と市民の人達がどのように力を発揮するのか。」ということの説明させてもらいました。あまりにもたくさんやっているんで、行政がそこまで手を出すと市民の人達は逆に自分達の手でと思わないのではないのですか、手を出し過ぎることはどうなのか、という質問もありましたが、私達としてはまずは一旦、一緒になって動いてもらって、あとは自分達で自分達の地域をどのように支えていくのかというところを現在手掛けているというところをお伝えさせていただきました。しかしながら、私達よりも全国的には進んでいるところが多くありますので、特にこの新総合事業につきましては、半田はまだ取り組んでいないので、その部分では先駆的なところをお聞きする中で、今あるものをこれが半田市独自だよ、ということを示しつつ、これにプラスオンしていきなり、拡大拡充していくことがこれからの役割ではないかと思っています。

○加藤美幸副委員長

山梨市の視察は、雁宿ホールや亀崎などの現場を見に行かれたのですか。

○藤田千晴福祉部長

昨日の方は、2泊3日でここはお話だけで、次の日に大垣市で子ども関係、その後が長野だったと思います。テーマが子どもと高齢者とそれぞれだったので、現場というところまでは含まれておりませんでした。

○沢田清委員長

おさらいというか、先の委員会でパワーポイントを使って高齢介護課の吉川さんから説明してもらった際に、その中に半田市の特徴として、支援するNPO団体が日本の中でも有数であると。コマは揃っている。車で例えると素晴らしい部品が各所に散らばっているけれども、まだ組み立てられていない。そこが今半田の弱いところで、課題でもあると。分かりやすく言うところということで、ベンツだとかBMWまでできる素材は揃いに揃っている。しかし、組み立てられていない。どうやって組んだらいいかがまだ迷っているところが課題だと。というところで、これが半田の特徴だと思うので、その部分を勉強できると、このハンドルはここに付けるだとか、このエンジンはここに組もうだとか、というところが出来るのではないかと。そこが要支援1、2の人に使えることができる、新しい総合事業のサービスの一端を担えば、先ほど言われた住み慣れた地域で健康に生活ができる高齢者が増えて来て、税金を使うことがなくなるようになればいいな、というところではないのかなと思います。僕も見えない中

で説明をしております。

○鈴木好美委員

福祉部長に確認ですが、今の稲城市の資料の中で、半田市は確かに福祉に関しては進んでいると自分も思っております。昨日の視察に関して、話はずれるかもしれませんが、公明党にはネットワークがあるものですから、昨年、地域包括の関係で視察にあちこちに行きましたよ、とフェイスブックで情報提供していたものですから、半田市に視察に来る来ないは別として、3か月くらい前にあちらの公明党さんにはお話はしていました。ここでいう、案がたくさんある中で、半田市としてモニタリングというか状況把握している部分はこの中にもたくさんあるんですね、コーディネーターによる地域支え合い、ネットワーク、ニーズ、様々ある中で、どうするんだ、と言うところが一番ネックだと思います。今回の地域包括ケアでも様々勉強させていただいたのですが、地域によっては格差もあっていくら介護施設を作ってもそこに来るのか来ないのか、老夫婦の方々に老老介護している人の所にじゃあ、毎月行けるのかどうか、通所、訪問介護ができるのかどうか。人数が足りない、人材不足という形が最後に残ってしまうような気がします。それを今後29年までには、各市町村がそういったものを第6次計画として立ち上げていくとは思いますが、部長として、今どんなものが必要だとお考えでしょうか。

○藤田千晴福祉部長

おそらくこれから総合事業を広げていくには、どういうことが必要なのか、というご質問かと思っておりますので、私なりにお答えします。既存の事業所が半田市はしっかりあります。あと、市民力で行っていただいているところもたくさんあります。でも、まだまだ自由に集まれる場所が少なく、もう少しあってもいいのかな、という様に思います。そこの担い手や場所をどのようにして確保していくのか、ということが大切であると思っています。特に老人会や色々な会がありますが、その集まる場所、高齢者と言っているのか分かりませんが、65歳から75歳でまだまだお元気な方たちが、いかに自分たちができることを地域で発揮していただける仕組みを作っていけるかが、大きな課題ではないかと思っています。あと、地域とそこがどのように繋がるか。例えば、ふれあい施設がどんな形で広まっていくと地域の人達が集まりやすいかですとか、また、それを担ってもらえる人もどんな形で広まっていくと良いのか。先ほど練馬でもあったように、どこに位置づけしていくと良いのかとか、私も今色々悩むところは、ボランティアでやってくさっているワンコインのお助け隊をこの事業として位置づけし、介護の一部になるとすると、ボランティアとしての気持ちが薄れてしまうのではないかとということも危惧するところではあります。ですので、そのようなことも含めてどこまでがボランティアで地域の本当の普通の支え合いを行い、そして、このような行政の国の施策の中に入れてもらうということとをうまく整理できるように時間をかけてやっていかなくはないかと思っています。だから、今進めているところが課題はなかったかですとか、ということを私は教えてもらって、文化等地域性が違いますのでそれが半田に合うかどうかは別ですけども、参考になる所は生かしていきたいと考えています。一言で言えば市民力をどのようにして生かすかということだと思います。

○加藤美幸副委員長

今、半田には地域包括支援センターは1か所ですよね。そこで高齢者一人一人の把握をこれからしていく予定なのでしょうか。

○藤田千晴福祉部長

今現在介護保険を受けていない65歳以上の方たちにはお知らせをして、チェックリストを頂いて、その中で必要な方に訪問等々を行って、二次予防対象者のご案内をしているというような流れができております。ですので、それをどのように広げていくか、子どもが0歳で生まれて1歳半と3歳で99%、100%の割合で健診を行っているように把握が出来るかというのと、私も、できています、と言うように言い切れない部分があるので、それも含めてどのような形で把握して、相談があった際には、相談の記録等々もどのような形にしていくと良いのかということも、今加藤委員が言われるような課題は、ひょっとしたら現場サイドで進んでいるところがあるかもしれませんので、そこは確認したいと思いますが、そこが十分ではないと私が現場を見ていて、徘徊の方等見ても思うのですが、包括と行政の連携が100%できている訳ではない現状だと思っております。

○沢田清委員長

しばらく休憩します。

午前10時21分 休憩

午前10時30分 再開

○沢田清委員長

再開します。皆様の質問事項は22日の午後5時までに事務局に提出してください。私と部長が考えた質問事項については、決まり次第皆様にお示します。他に質問事項等があれば、当日現地で質問いただければと思います。視察後のレポートにつきましては、事務局から後ほど送付させますので、それに沿って作成をいただきますようお願いいたします。提出は11月5日（木）午後5時までとさせていただきます、とりまとまりましたらご配布をさせていただきます。全体的な所でご意見等ありましたらお願いします。

【「なし」との声あり】

一つ私から、当日の服装ですが、視察先の状況を事務局に確認させますので、後ほど委員の皆様にお知らせさせていただきます。次回の委員会につきましては、視察後の意見集約を11月10日（火）全員協議会終了後に開催しますのでよろしく申し上げます。これをもちまして委員会を閉会します。

午後10時33分 閉会